

木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要版



木 更 津 市

木更津市人口ビジョン

木更津市がめざす将来は・・・

本市の人口は、昭和 60 年から 12 万人台前半で推移してきましたが、平成 18 年度以降は、東京湾アクアライン通行料金の引下げや、その効果である大型商業施設等の相次ぐ出店、土地区画整理事業に伴う住宅地整備の進展などの影響により、人口が年々増え続ける状況にあります。平成 27 年 10 月現在の人口は 134,175 人で、平成 17 年からの 10 年間で 9.8%増加しました。

しかし、転入者数が転出者数を上回る現在の状況が続いたとしても、長期的には人口の減少が見込まれており、出生率の大幅な改善と、転入超過を維持するための魅力あるまちづくりを進めることが課題となっています。

そこで、本市が持つ都市機能や豊かな自然環境、歴史文化などを活かすことによって、多様なライフスタイルを実現できるまちを構築し、人口増加のトレンドの維持をめざします。

目指すべき将来の方向

- ①若い世代が安心して子育てできる環境を充実させ、出生率をさらに高めます。
- ②雇用の創出と通勤・通学や生活の利便性を高め、若い世代の転出を抑制します。
- ③東京都心部に近接しながら豊かな自然と共生できる本市の強みを活かした、定住を促進します。

将来人口

上記①～③を達成し、かつ将来の合計特殊出生率が国の仮定値となるよう、平成 42 年に 1.8、平成 52 年に 2.07 へと上昇することを前提にした場合、市制施行 100 周年にあたる平成 54 年には、14 万 5 千人程度の総人口が推計されます。



ライフステージ別にみた木更津市の現状は・・・

就職

- 企業進出に追い風(高速道路網の整備進展や、京浜地区と比較した地価の相対的安さなど、企業誘致を行う上での強みを発揮)
- 進学や就職に伴う10代後半から20代前半の転出傾向に歯止め
- 通学をきっかけに本市と縁を持つ人の多さ(通勤は流出超過だが、通学は流入超過)

結婚

- 未婚化／晩婚化の進行
(生涯未婚率は、男性が平成12年13.3%⇒平成22年22.7%、女性は同4.1%⇒8.6%)
- 結婚に至らない2大要因は、“出会いの不足”と“経済的不安”
- 20～40代の既婚者は、男女ともに、結婚をきっかけとする転入理由が最多

出産・育児

- 子供数に対する現実と理想のギャップ
(アンケートに回答した既婚者の実子数は平均1.6人だが、理想の子供数は平均2.3人)
- 合計特殊出生率は県内6番目に高い
(本市は平成25年1.52⇒平成26年は1.43、全国平均は同1.43⇒1.42)
- 食費や衣服などの子育て費用や、高校・大学への進学費用に対する経済的不安
- 実家近くに住むことに対するニーズの高さと、地域で助け合える環境の必要性

めざす将来のために木更津市が取り組むべき課題は・・・

- ア) 雇用維持・拡大のための企業誘致や企業支援の促進
- イ) 東京湾アクアラインや地域資源を活かした交流促進
- ウ) 学生に向けた本市の魅力発信
- エ) 結婚や子育てに対する経済的不安の軽減
- オ) ニーズの変化に合わせた保育サービスの提供
- カ) 人々をつなげる仕掛けづくり
- キ) 本市の魅力を活かした生活環境の整備



木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 27 年度～平成 31 年度)

基本目標 1

地域一体となって、未来を担う「木更津っ子」を育む

活力あふれる持続可能な未来の担い手の創造に向けて、安心して結婚や出産、子育てに臨めるよう、結婚から妊娠、出産、子育てにわたる切れ目のない支援や若い世代に対する経済的自立支援、関係機関等と連携したワーク・ライフ・バランスの推進に取り組めます。

本市の特色ある教育環境や地域資源を活かし、地域一体となって郷土愛あふれる「木更津っ子」を育みます。

数値目標

出生数 1,051 人(平成 26 年度)
⇒ 1,150 人(平成 31 年度)

(1) 結婚・出産・子育ての 切れ目のない支援

- ◇結婚・妊娠・出産に対する不安を解消します。
- ◇子どもの心身の健やかな成長を支援します。
- ◇子育ての孤立感や負担感を減らします。
 - ・不妊に悩む方への支援
 - ・妊娠・出産の正しい知識の普及・啓発
 - ・母子保健の充実
 - ・多様な保育サービスの充実
 - ・児童の放課後対策の推進
 - ・家庭教育支援の充実
 - ・子育て世代包括支援センターの設置に向けた検討 など

(2) 働きながら産み育てやすい環境づくり

- ◇男女がともに、仕事、育児、介護、地域活動及び自己啓発など、多様な働き方・生き方を選択でき、充実した生活が送れるよう支援します。
 - ・ワーク・ライフ・バランスの意識啓発
 - ・女性が活躍(就労)しやすい環境づくり など

(3) 「木更津っ子」を育む 教育の充実

- ◇木更津で生まれ育つ「木更津っ子」が、郷土愛を持ち、大人になっても木更津市で暮らしたいと思ってもらえるよう働きかけます。
 - ・教育内容の充実
 - ・特別支援教育の推進
 - ・開かれた学校づくりの推進
 - ・食育の推進・健康教育の強化
 - ・地元産食材(オーガニック野菜等)を使用しながら、給食残渣を活用した循環による児童生徒への食育の推進 など

(4) 若い世代の経済的安定の確保

- ◇若い世代にとって、結婚や子育てのハードルとなっている経済的不安を解消します。
 - ・若年者の雇用の安定化 など

基本目標2

多様な地域資源の循環によって、地域経済を活性化させる

持続可能な地域経済の確立に向けて、農林水産業に関しては、新規就農を促進するとともに、本市の多様性を活かし、地産地消等を通じた地域内循環やオーガニック野菜など高付加価値な農産物の生産促進等に取り組めます。

また、交通利便性や地価水準、用地確保の容易性や自然豊かな住環境などを活かし、企業立地を推進するほか、産業振興により、安定した所得を得られる雇用を確保します。

さらに、多様な本市の魅力を広く発信するとともに、地域資源を活かした観光振興を推進します。

数値目標

市内事業所数

4,807 事業所(平成 24 年2月1日)
⇒5,100 事業所(平成 31 年度)

市内事業所従業者数

46,082 人(平成 24 年2月1日)
⇒51,800 人(平成 31 年度)

(1) 農林水産業の成長産業化への支援

- ◇環境にやさしい有機農業や地産地消を推進します。
- ◇意欲ある農業者の育成、地域農業の維持・発展を推進します。
- ◇農業被害をもたらす有害鳥獣の防止対策を強化します。
- ◇六次産業化の支援や、木更津産ブランドの創造を支援します。
- ◇アサリやハマグリなど、水産物を保護・育成します。
 - ・有機農業の推進体制の構築
 - ・定年帰農者やU I Jターンなどの新規就農者への支援
 - ・きさらづアグリフーズのブランド化 など

(2) 産業・創業及び地域産業の持続的成長に対する支援

- ◇産業・創業支援の拠点に必要な支援を行います。
- ◇魅力ある商店街づくりなど、地元産業を活性化します。
- ◇資金融資の円滑化など、地域の中小企業を振興します。
 - ・産業・創業支援の拠点整備
 - ・官民連携による創業の促進
 - ・中小企業の経営基盤強化や経営改革の支援 など

(3) 企業誘致の推進

- ◇「かずさアカデミアパーク」、「金田地区(かずさアクアシティ)」、「インターチェンジ周辺地区」を中心に、地域特性に応じた企業誘致に取り組めます。
- ◇かずさアカデミアパークに立地する研究機関や企業等と地元企業との連携を図ります。

(4) 観光産業の競争力強化

- ◇産業や地域資源を組み合わせ、ストーリー性を持たせた観光資源化を図り、新たな誘客をめざします。
- ◇観光ニーズの把握に努め、情報発信を充実します。
 - ・多様な観光資源を活かした観光地づくり
 - ・ホームページやSNSによる情報発信の充実
 - ・映像支援の体制整備 など

(5) 安定した雇用の確保

- ◇中小企業のニーズに応じた多様な人材の確保を図ります。
 - ・企業と求職者のマッチング など

木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 27 年度～平成 31 年度)

基本目標3

自然との共生をかなえる、アクアラインを活かした定住・交流を促進する

東京湾アクアラインにより東京都心に近接し、都市機能がバランス良く展開する一方、豊かな自然環境や里山・里海と共生できる、本市の魅力を活かすことで、様々なライフスタイルが実現できるまちとしてブランド力を高めます。これにより、街なかや農村など木更津市への定住を促進します。あわせて、グリーン・ブルーツーリズムの推進やスポーツイベント・スポーツ合宿の誘致等に取り組み、交流人口の増加を図ります。

数値目標

人口の社会増

(転入者数－転出者数)

1,048 人(平成 26 年度)

⇒1,400 人(平成 31 年度)

観光入込客数

1,827 万人地点(平成 26 年)

⇒2,000 万人地点(平成 31 年)

(1)

多様なライフスタイル がかなう定住の促進

◇土地利用の共同化や高度化により、市街地の環境整備や良好な市街地住宅の供給等を促進します。

◇空き家を有効活用し、所有者と希望者のマッチングを行います。

- ・街なか居住マンションの建設や取得に対する助成
- ・空き家バンクの制度化
- ・市街化調整区域(農村)における地区計画の誘導 など

(2)

木更津の様々な魅力 の情報発信の強化

◇「循環」、「共生」、「自立」のキーワードのもと、人と自然が調和した持続可能な未来を創る「オーガニックなまちづくり」を推進することで、ブランド力を高めます。

◇様々なメディア等を有効に活用し、住環境に関する情報や本市を楽しむための情報を分かりやすい形で届けます。

- ・オーガニックなまちづくりに係る事業の推進
- ・良好な景観形成の推進
- ・メディア等を活用した戦略的な魅力発信 など

(3)

東京オリンピック・パラ リンピック等を活かし た交流人口の取込み

◇「東京から一番近い田舎」をキーワードに農業・漁業を軸とした新たなにぎわいの創出を図ります。

◇羽田空港や成田空港からの高いアクセス性や木更津港を活かし、本市への外国人観光客の集客を促進します。

◇国際交流・国際理解の推進を図り、外国人が暮らしやすい地域づくり、国際感覚に優れた人材の育成を図ります。

- ・グリーン・ブルーツーリズムの推進
- ・「道の駅」の整備
- ・農家民宿等の展開の検討
- ・外国人観光客向けのWi-Fi環境整備
- ・海外への戦略的な情報発信
- ・国際交流イベントの開催
- ・通訳ボランティアの養成・確保 など

木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 27 年度～平成 31 年度)

基本目標4

市民力・地域力を高め、持続可能な自立するまちを構築する

市民力・地域力を活かしたまちづくりへの支援の充実や、みなとまち木更津の再生、コンパクトなまちづくりの推進、交通ネットワークの強化等を図ります。

誇りあるふるさと木更津の豊かな自然環境や里山・里海を守り育み、貴重な歴史・文化の継承を支援します。

また、市民が生涯にわたって、健康で生き生きと暮らすことのできる地域づくりを推進します。

数値目標

市民活動団体登録数

ー 団体(平成 26 年度)
⇒50 団体(平成 31 年度)

自主防災組織活動カバー率

42.2%(平成 27 年4月)
⇒70.0%(平成 31 年度)

(1) 市民力・地域力による 自立した地域づくり

◇地域自治の強化や市民の公益性のある活動を支援します。

- ・市民活動支援の推進拠点整備
- ・市民活動の牽引役となるリーダーの養成 など

(2) 快適で暮らしやすいコ ンパクトなまちの形成

◇木更津駅やみなと周辺で一体的なまちづくりを展開します。

◇都内等への通勤や広域交流の利便性を高めます。

- ・街なかのにぎわいを創出する取組への支援
- ・使いやすい路線バスネットワークの形成 など

(3) 生物多様性を育む自然 との共生

◇盤洲干潟において、絶滅危惧種等の生息環境を維持するため、市民等と協力し、保全に取り組みます。

◇市のふるさと風景である里山の保全・活用に取り組みます。

- ・干潟クリーン作成への参加 など

(4) 生涯を通じて健康で生 き生きと暮らせる地域 づくり

◇市民の健康に対する関心を高め、特に若い世代からの健康への取組を強化し、健康寿命の延伸につなげます。

◇文化、まちづくり、スポーツ等、さまざまな分野の市民の自主的な学習活動を支援します。

- ・健康マイレージ事業の実施 など

(5) ふるさと木更津づくり

◇歴史や文化、芸術、伝統に関する記録を残し、それらを市民が学び体験できる機会を充実します。

- ・芸術文化活動の推進
- ・ふるさと文化の継承 など

(6) 地域の支えあいので安心 に暮らせる地域づくり

◇住民の防災意識の向上や住民防災組織の活性化、計画的な備蓄、建築物の耐震性向上などに取り組みます。

- ・地域の防災リーダーとなる人材の育成
- ・自主防災組織の活性化 など

(7) 多様な主体との連携推 進

◇大学や高等専門学校、企業等と連携した地域づくりを行います。

◇生活圏を踏まえた広域連携による取組を推進します。

◇将来的な近隣市との合併による中核市への移行をめざします。

- ・君津地域の広域連携や共同処理の推進 など

木更津市人口ビジョン

木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略
平成 27 年度～平成 31 年度

発行日：平成 28 年 3 月

発 行：木更津市

〒292-8501

木更津市富士見一丁目 2 番 1 号

電 話 0438-23-7425

<http://www.city.kisarazu.lg.jp/>

編 集：木更津市企画部企画課